

目次

1. 2018年3月期 決算説明会での主なQ&A
2. 2018年3月期 決算発表後 IR 活動でのQ&A

1. 2018年3月期 決算説明会での主なQ&A

- Q. SE の今期（2019/3）の上期売上予想は 1,155 億円だが、前年下期の売上 1,273 億円との比較では、118 億円も減少しているが、何か特別な理由はあるのか？2018/3 月末の受注残高（1,786 億円）を鑑みても、今期の上期売上予想は低すぎないか？
- A. 売上時期はお客様の納期タイミングにより決まるものであり、特別な理由はありません。
- Q. SE の SU-3300（枚葉洗浄装置、2016 年にリリースした新機種）についてだが、顧客での採用状況、ならびに、今期の売上予想は？
- A. 個別のお客様についてのコメントは差し控えさせていただきます。既に、2 月の半導体事業説明会にて説明させていただいたとおり、当社が今まで入れていなかったエリアにも浸透しつつあります。また、今期の売上予想につきましては、主力の枚葉洗浄装置 SU-3200 との併売を想定しており、SU-3200 または 3300、または、両者などの選択は、お客様や採用プロセスにより異なり、具体的な数字は開示しないものの、前期比では増加を見込んでいます。
- Q. SE のプレゼン（P. 11）に前期の地域別とアプリケーション別の売上構成が示されているが、今期の上期、下期、アプリケーション別の予想数字は？
- A. 上期、下期に分けては開示しませんが、全般的には DRAM が牽引役になると考えています。NAND は、前期がかなりの高水準でしたので、一時的な減少は見られるかもしれませんが、引き続き需要は強いと見ています。ロジック/ファウンドリーは、前期比増加を予想しています。
- Q. SE の前期と今期のポストセールス、フロンティア製品（200mm 対応のラインナップ）の対売上比率はどれぐらい？
- A. 前期は、対売上比率としては 20～25% ぐらいでした。売上が増加する中では、比率では申し上げにくいのですが、今後も継続的に拡大すると見ています。フロンティア製品は、IoT などの進展を背景に、堅調に売上が伸びており、今期もまた前期比で増加する見込みです。
- Q. SE の受注から据付完了までのリードタイムは、概ね 3 カ月ぐらいかと考えていたが、今後は 6 カ月ぐらいだと捉えた方がいいのか？
- A. そこまで長くはならないでしょう。100 日ぐらいもあればそれ以上もあり、効率を勘案しつつ生産しています（お客様により受注から納期までの期間は異なる）。

- Q. 今期も利益改善を予想しているが、利益率向上を牽引するのは？
- A. 全社の利益を大きく牽引するのは、引き続き SE だと考えています。12月に彦根の工場新棟も竣工予定、効率改善に寄与するのは4Q（今期）だけです。今期全体としては、設計の標準化、ポストセールス、IT投資、新製品への開発投資のリターンなどを見込んでいます。なお、お客様や製品ミックスによる利益変動はないと考えており、基本的には運用管理が重要だと捉えております。
- Q. SEで新興の中国市場（ローカル半導体メーカー）について、3カ月前（1月31日の2017/12の決算時）と比べて何か予想など、変化はあるか？
- A. 基本的には、変化はありません。国家政策でもあり、投資計画は着実に伸ばされていくと見込んでいます。
- Q. 今期、売上も増え、設備投資も310億円（前期実績は144億円）と積み増したが、今期末のフリーキャッシュ・フローもプラスのままを予想しているのか？
- A. 現状、彦根での設備投資増（SEおよびFT）を踏まえても、大丈夫だと考えています。今後、新たなテーマ（投資案件）が出てくれば、様々な検討の可能性はあろうかと考えています。

2. 2018年3月期 決算発表後 IR 活動での Q&A

- Q. 全体: 今期（2019/3）の予想では、設備投資額、研究開発費を大幅に増加するが、その後の水準は？
- A. 設備投資については、彦根での SE、FT の生産能力増強については今期中に終える予定です。彦根以外の設備投資も含めて、その後は巡航速度（程度）を想定しております。
- Q. SE: CY2018 の WFE（前工程装置市場）の見方と今後の市場見通しは？
- A. CY2017 に続き、CY2018 以降も \$50bn 以上の継続成長を見込んでいます。機種群の少ない当社が予測するのは難しいですが、ご参考までに、弊社の SE および HD・マーケティング部門の見解では、+10%程度と予想しています。
- Q. GA: 通期、前期比で増収増益、収益性も改善した背景は？今後の継続性は？
- A. ラインナップを拡充した POD と消耗品（特にインク）の売上が伸長しました。特に、利益率の高い、インク売上の増加が収益改善に寄与しました。また、利益管理を、本社で集中コントロールする体制に変更したことも奏功しました。今期もさらなる改善を目指し、売上水準の引き上げ、および、収益性向上に継続的に取り組んでまいります。
- Q. FT: FY2018 4Q の受注高は 246 億円と高水準であり、その半数が大型（G8 以上）だが、今後の動向と収益性は？
- A. 今後も、G10 以上の投資案件は一定量あると見ています。生産効率改善などにより、営業利益率 10%維持を念頭に置いています。

Q. PE: 通期、売上は順調だったが、今後の利益水準と市場見通しは？

A. 高性能スマホに牽引され、通期で初めて売上高 100 億円を越えました（直接描画装置中心）。今後は、新機種投入などで売上を伸ばしながら、全社目標の営業利益率 10%以上を目指します（来期に向けた目標）。また、今期後半は、車載向け需要の増加に期待しています。

〔備考〕

HD: ホールディングス、SE: 半導体製造装置事業、GA: グラフィックアーツ機器事業、FT: ディスプレー製造装置および成膜装置事業、PE: プリント基板関連機器事業

以上